

【研究ノート】

知覚動詞補部構造に関する覚え書き*

加藤力也

1. はじめに
2. Akmajian (1977)
3. Declerck (1982)
4. 考察 (次号)

1. はじめに

- (1) a. I saw *John cross the street.*
b. I saw *John crossing the street.*
c. I heard *Mary play the piano.*
d. I heard *Mary playing the piano.*

(1)の斜体部は一般に see, hear のような知覚動詞の補部, すなわち知覚動詞補部 (Perception Verb Complement) (略して PVC) と呼ばれるが, 更にこの補部内の動詞の-ing の有無により (1a) 及び (1c) は (伝統的な用語を借りて) 原形不定詞知覚動詞補部 (Bare-Infinitival Perception Verb Complement) (略して B-IPVC), (1b) 及び (1d) は現在分詞知覚動詞補部 (Present-Participial Perception Verb Complement) (略して P-PPVC) と区別することが出来るであろう。

この PVC の構造, 特に B-IPVC の構造が, make, let などのいわゆる使役動詞の補部構造とどのような対応関係を持つのか, また伝統的に (to)不定詞付対格 (accusative with (to-) infinitive) と呼ばれる構造を取る want, like; believe, consider; force, persuade 類の動詞¹の補部構造とどのような対応関係を持つのかは非常に興味をそそる研究課題であろう。

しかし, この覚え書きでは, 上記の課題にふれることなく, 知覚動詞

補部構造 (Complement Structure of Perception Verb) そのものの説明がどの程度行なわれているかを見るために、Akmajian(1977)と Declerck (1982)を取り上げて、その主張を整理²し、さらにその問題点を考察し、合わせて今後の研究の資料にしたいと考える。

Akmajian (1977) を取り上げる理由は、現在なお言語学の主流をなす N. Chomsky を中心とする、自律的統語論 (autonomous syntax) の枠組の中での PVC に関する主要論文であるからではなく³、(a)一見して無関係と思われるいくつかの構造を統一的に説明しようとする (無理ではあってもその点では意味のある) 試みであること、(b)PVC 以外にも応用可能と思われる豊富な構成素テストを与えてくれること、(c)Declerck (1982) が本論文に対する反論のかたちをとっているからである。

Declerck (1982) を取上げる理由は、(a)Akmajian (1977) とは対照的に一見同じと思われる構造に対して異なる説明を与えようとしていること、(b)方法論的にはより厳密さに欠けるのかもしれないが(意味上の判断を含めた)豊かなデータを駆使することによって、Akmajian(1977)よりも説得力のあるものになっていると感じられるからである。

2. Akmajian (1977)

2.1 A. は(2)の斜体部のような知覚動詞 see や hear⁴の補部構造を自律的統語論の枠組みの中で扱い、(2 a)の *the moon rising over the mountain* のような句は「文の源 (sentential source) を持つのではなく、NP *the moon* が単一構成素 NP の主要部 (head) として機能し、*rising over the mountain* がこの主要部の動詞句 (である) 補部 (VP-complement) である⁵」とする分析を与えようとした。

- (2) a. We saw *the moon rising over the mountain*.
 b. We heard *the bells ringing at sunset*.

A. は PVC の可能な源 (possible source) は何かを問うことから始め、Restrictive Relative Clause, Appositive Relative Clause, Gerund を退りぞけた後、あらたにこの問題に関連する証拠を求めて行く。

まず、(3)の統語(論的)テスト (syntactic test) によって、(2)のような PVC は単一の統語的構成素 (single syntactic constituent) であることが確

立されたとする。

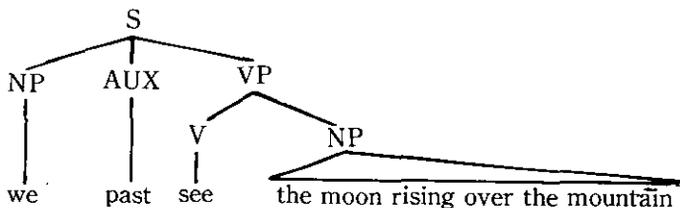
- (3) a. What we saw was *the moon rising over the mountain*.
(Pseudo-Cleft)
- b. We saw what we had all hoped to see: *the moon rising over the mountain*. (Equative “Colon” Construction)
- c. You can *see*, but you certainly can’t *hear*, *the moon rising over the mountain*. (Right Node Raising)

さらに、(4)の診断テスト (diagnostic test) 及び(5)のように深層構造 NP の位置 (deep structure NP-position) に起り得る事実に基づいて、PVC は単に単一構成素であるばかりでなく、単一の NP 構成素 (single NP-constituent) であるとする。

- (4) a. It was *the moon rising over the mountain* that we saw. (Cleft Sentence)
- b. *The moon rising over the mountain* was a breathtaking sight to see _____. (Object Deletion)
- c. *The moon rising over the mountain* has been witnessed by many a lover on Lover’s Lane. (Passive)
- (5) a. *The moon rising over the mountain* is a beautiful sight.
- b. The sight of *the moon rising over the mountain* was breathtaking.

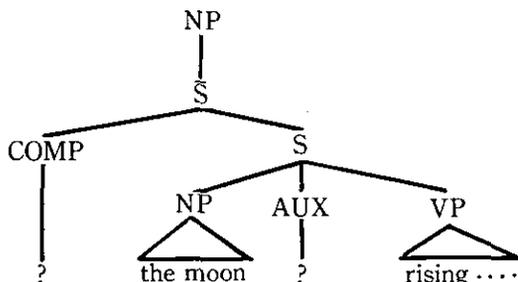
以上の証拠は文 (2a) が(6)のような大まかな (深層) 構造 (gross (deep) structure) を持つことを示唆していることになるとする。

(6)



2.2 次に PVC に与えられた NP の内部構造に移り、これを一般に提案されている NP-over-S, 具体的には(7)のようなものと考えすることは、以下に述べる(A)~(D)の4つの事実により排除されなければならないと論ずる。

(7)



(A) PVC は次の2つの点で S としての資格を備えていない事。

(a) 句構造規則 (PSrule) AUX → Tense (Modal) (have en) (be ing) によって生成されるはずのどの深層構造助動詞 (deep structure auxiliary verb) も PVC には起ることは出来ない。(8)はその1例とする。

(8) *I heard Mary having played my song.

(b) PVC は that, for-to, poss-ing のような明白な補文識標 (complementizer) を持たない。

(B) 数一致 (number agreement) に関する事実。

(a) 受動 (規則) (passive) が PVC を前置した時の主節 (main clause) の数の一致は(9)に見られるように派生された主語の位置にある PVC が担っ (trigger) ている。

(9) a. The astronomers at Kitt Peak have often {observed
photographed}
the moon and Venus rising in conjunction.

b. The moon and Venus rising in conjunction have (*has)
often been {observed
photographed} by the astronomers at Kitt Peak.

(b) PVC が基底主語 (underlying subject) として機能する時も、(10)のように同じ現象が見られる⁷。

(10) a. The moons of Jupiter rotating in their orbits are (*is)

beautiful to watch ____.

- b. *The moons of Jupiter rotating in their orbits* are (*is) a breathtaking sight.

(9b) 及び(10)では、母体文 (matrix sentence) あるいは主節の動詞一致は、PVCの「埋込み主語」(“embedded subject”)と想像されるNPが担っていることは明らかであるが、(11)に見られるように、真の埋込み主語は決して母体文の数一致を担うことは出来ない。

- (11) *That the moons of Jupiter rotate in their orbits* wasn't (* weren't) obvious.

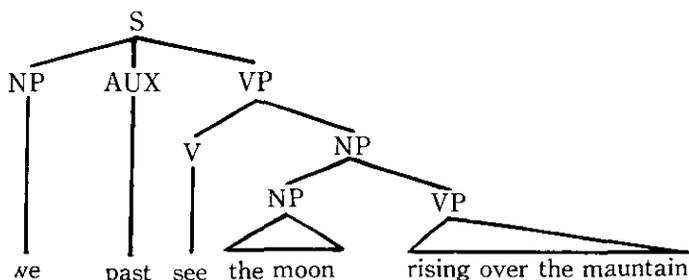
(c)同じ数一致の現象は擬似分裂文 (pseudo-cleft sentence) にも現れる。

- (12)⁸ a. *What we saw* were (*was) *the moons of Jupiter rotating in their orbits*.
 b. *What wasn't obvious* was (*were) *that the moons of Jupiter rotate in their orbits*.

以上の数の一致に関する証拠はPVCと真の埋込み文の基本的な構造の相違は、PVCの最初のNPは埋込み節の構成素ではなく、主節の構成素のように振るまう (behave) こと、具体的な例を上げれば、「(9b)のNP *the moon and Venus* は埋込まれた主語でなく、(NPの主要部のみが数一致を担うすれば)むしろそれを含んでいるより大きなNPの主要部(head)である⁹」ことを唆示しているとする。

これによってPVC(を含む)構造は(13)であるとされる。

(13)



この構造は矢印の右の NP がより大きな NP の主要部である NP → NP VP という句構造規則を伴うことになるが、この構造は (9b) のように受動規則が適用された場合に、母体文の主語が複数の主要名詞 *the moon and Venus* を含むことになり、これによって主節での複数の数一致が行われることになるとする。

(C) PVC 内の VP 構成素の外置 (extraposition)。

一般に名詞句の主要部に対する補部は(14)~(16)に見られるように外置することが可能である。

- (14) a. *A review of a new book about China will appear soon.*
 b. *A review will appear soon of a new book about China.* (PP-complement)
- (15) a. *A man who we all knew walked in.*
 b. *A man walked in who we all knew.* (relative clause)
- (16) a. *New evidence that NPs are cyclic was presented.*
 b. *New evidence was presented that NPs are cyclic.* (that-complement)

次の(17)及び(18)は、PVC 内の主要部 NP に続く VP 構成素は、(14)~(16)のイタリックの補部とまったく同様にふるまうこと、つまり外置されることを示しており、PVC の‘主語’が主要部的 (head-like) 性質を持つこと、また外置される補部はこの主要部 NP に対する補部であることを示しているとする。

- (17) a. *The moon rising over the mountain looks spectacular.*
 b. *The moon looks spectacular rising over the mountain.*
- (18) a. *The bells rising at sunset make a soothing sound.*
 b. *The bells make a soothing sound rising at sunset.*

また、このような外置は真の埋込み文に含まれる VP には不可能であるとして(19)の例を上げている。

- (19) a. *For the moon to rise over the mountain wouldn't be surprising.*
 b. **For the moon wouldn't be surprising to rise over the mountain.*

(D) 照応関係 (anaphoric relation) からの証拠。

(20)のような真の埋込み文であれば, *he* は *John* に先行 (precede) していても, 先行する従属節内に含まれているため *John* を統御 (command) していないので, 照応関係が可能である。

(20) That *he* is fairly stupid is a fact that *John* can't bear to live with.

他方(21)で *he* と *John* の照応関係がはばまれるのは, *him* が従属節の中に含まれているのではなく, PVC の主要部として主節自体の統語的構成素であるため, *him* が *John* に先行すると同時に統御しているからであると説明できるとする。

(21) **Him* playing the piano is a sight as funny as the sight of *John* dancing on the table¹⁰.

2.3 しかし, A. は先に PVC が単一の統語的構成素 (すなわち NP) であることを証明するために用いた標準的な構成素構造テストが, (22) に示すように, PVC があたかも2つの独立した構成素から成っていることを示すために用いることが出来ることを認めている。

(22) a. What we saw rising over the mountain was *the moon*.
(Pseudo-Cleft)

b. It was *the moon* that we saw rising over the mountain.
(Cleft)

c. *The moon* was seen rising over the mountain. (Passive)

さらに(23)~(25)の例も, NP *the moon* が後続の VP とは独立した構成素であることを示している。

(23) *The moon* is beautiful to watch ___ rising over the mountain.
(Object Deletion)

(24) a. What did you see ___ rising over the mountain. (Wh-Fronting)

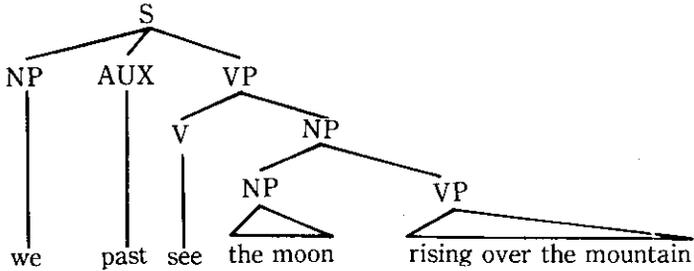
b. The moon, I'd love to see ___ rising over the mountain.
(Topicalization)

(25) Observe the moon, my dear, rising over the mountain. (Interpolation of Interjection)

構成素構造テストによって, PVC は単一の構成素であると同時に独立した2つの構成素であるという, この統語論的な矛盾を解決するために, A. は先に(17)及び(18)で見たのと同じ外置 (extraposition) が, これらの例

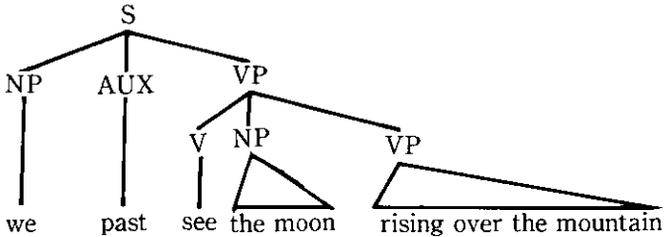
では(26)のように「空虚に」(“vacuously”)に行われたのであると提案している。

(26) a.



⇓ EXTRAPOSITION

b.



2.4 次に A. は(27)のような動詞形が原形不定形 (bare infinitive form) である PVC¹¹, すなわち B-IPVC の存在を取上げる。

(27) a. We saw the moon *rise* over the mountain.

b. We heard bells *ring* at sunset.

そして、先に-ing 接辞を持つ PVC¹², すなわち P-PPVC が単一の構成素であることを証明するために用いたテスト(28)によって、この PVC は「決して(単一)構成素ではなく、NP-VP という(独立した)連鎖にすぎない¹³」とする。

(28)¹⁴ a. *What we saw was Raquel Welch take a bath. (Pseudo-Cleft)

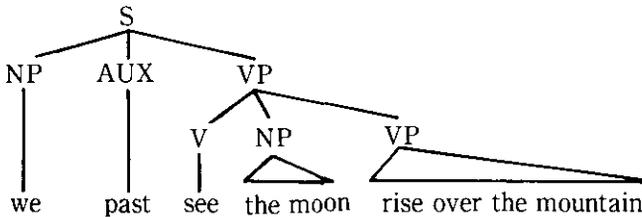
b. *It was Raquel Welch take a bath that we saw. (Cleft)

Sentence)

- c. *? We could *hear*, but we couldn't *see*, Raquel Welch take a bath. (Right Node Raising)
- d. *Raquel Welch take a bath is a breathtaking sight to see _____. (Object Deletion)
- e. *Raquel Welch take a bath has been witnessed by many a moviegoer. (Passive)

これを説明するために、A. は B-IPVC は、P-PPVC が外置を受けた後の派生構造と同じものである(29)のような深層構造を持つことを提案している。

(29)



3. Declerck (1982)

3.0 D. は(30)の斜体部を「分詞知覚動詞補部」(“Participial Perception Verb Complement”, 略して PPVC) と呼び、これが「少なくとも3種類の異った構文 (construction¹⁵) に起り得、したがって3つの異った分析が与えられるべきである¹⁶」ことを主張している¹⁷。

- (30) a. John saw *Mary swimming in the river.*
 b. Tom heard *someone whistling a tune.*
 c. Mother watched *the boy playing.*

3.1 第1に、D. は最も無標のケース (the least marked case) である P-PPVC を持つ (31a) と不定詞知覚動詞補部 (Infinitival Perception

Verb Complement, 略して IPVC) と呼ぶ B-IPVC を持つ (31b) を取り上げ、「このような構文に起る IPVC と PPVC は基本的に同じ構造 (structure) から派生されると仮定する十分な理由がある¹⁸⁾」とする。

(31) a. I saw *the moon rising over the mountain*.

b. I saw *the moon rise over the mountain*.

この主張の根拠は、まず (a) (31a) と (31b) は共にこの構文では文法的であること¹⁹⁾、(b) (31a) と (31b) の違いは相 (aspect) の相違、すなわち PPVC は意味上進行的 (progressive) であり、IPVC はそうではない—にすぎないこと²⁰⁾、及び (c) 等位接続 (conjoin) される構成素は必然的に同じタイプのものであるから、IPVC と PPVC が等位接続される(32)のような文は、両者が同じタイプのものであることを示していることである。

(32) a. I heard someone *coming and open the door*.

b. I have often seen him *glance through her window or watching her when she was sunbathing*.

c. Tom heard *a door open and somenone approaching*.

なお、明言は避けているが、この IPVC と交替するまた等位接続される PPVC は基底構造 (underlying structure) において S に違いないし、派生に関しては他の可能性も考えられるが、Subject-to-Object Raising がもっとも可能性が高いとしている。

3.2.1 第2に(33)を取り上げ、(33a) の PPVC は Akmajian (1977) が述べているように、NP として振るまうことを認め、この事実は更に(34)のような他の NP を移動する変形 (NP moving transformation) によって確認されるとしている。

(33) a. *The moon rising over the mountain* was seen by many people last night.

b. **The moon rise over the mountain* was seen by many people last night.

(34) a. *The moon rising over the mountain* is interesting to watch. (Object Shift)

b. *The moon rising over the mountain* appears to have been seen by many people last night. (Raising)

- c. What we saw was *the moon rising over the mountain*.
(Pseudo-cleft)
- d. *The moon rising over the mountain*, I've seen it often
enough. (Dislocation)

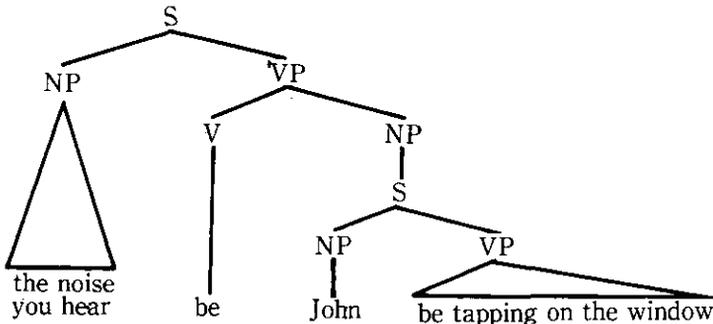
しかし、(a) (33b)に見られるように、この構文では PPVC しか現れることが出来ない、また (34a-d) では PPVC を IPVC で置き代えることは出来ないこと、及び (b) (33a) と (34a-d) は (31a) と異なり必ずしも進行 (progressive) の読みをとらなくてもよい事実²¹によってこの PPVC は (31a) に用いられた PPVC とは異なるタイプであるとする。

3.2.2 ここで、D. は単一 NP 構成素として振まい、進行の意味を持つ必要のない PPVC は、名詞主要部 (noun head) と普通の連体的修飾語句 (adnominal modifier) と同じ形式的統語論的特徴を持つが、制限的でも非制限的 (同格的) でもない「擬似修飾語句」(“pseudo-modifier”) から成る (少くとも 4 つの case の 1 つである) NP として扱われるべきであると論じている。

次の(35)は典型的な名詞主要部+擬似修飾語句構文を持つが、これは、(36a) のような S 補部から、「擬似修飾語句形成」(“Pseudo-Modifier Creation”) と呼ばれる変形によって、NP を抜き出し、この S に姉妹付加することによって派生された(36b)のような表面的な構造 (superficial structure) を持つとされる。

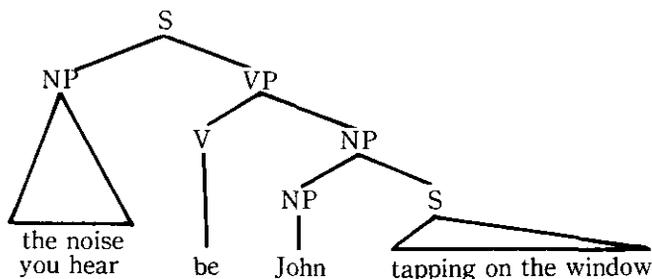
(35) The noise you hear is *John tapping on the window*.

(36)²² a.



⇓ Pseudo-Modifier Creation

b.



詳しく述べる余裕はないが、(a)派生された構造で、(全体としてNPである) PPVCの「主語」NPが名詞主要部であることによって、(37) (= (9b)) が複数の数一致を担うことが説明されるとする。

(37) *The moon and Venus rising in conjunction have often been observed by the astronomers at Kitt Peak.*

また、(b) PPVCが表層構造 (surface structure) ではNPであっても、基底構造ではSであることによって、(38)は名詞主要部が複数であっても、単数の数一致が行なわれること、及び(39a)ではPPVCが*What*で指され、(39b)では左方転位されたPPVCが*it*で指されることが説明されるとしている。

(38) *The two of them playing together has (? have) seldom been observed by us.*

(39) a. *What (*who) I saw was John kissing a girl.*

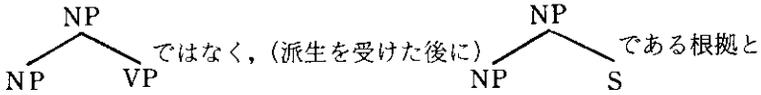
b. *John and Bill walking about in our garden, I've seen it often enough.*

さらに、(c) (40) に於いて単複両方の数一致が可能なのは上記の (a) 及び (b) の性質が重っていることによるものであるとされる。

(40) *Your teachers quarreling with each other last night has/have been overheard by some of the students.*

D. は外にこのPPVCが名詞主要部+擬似修飾語句からなるNPであることを示す証拠を上げているが、ここでは省略する。

3.2.3 次に D. はこの PPVC の構造が, A. が根拠を示さずに提案した



して, (a) Ross の複合名詞句制約 (Complex NP Constraint) 及び Chomsky の下接の条件 (Subjacency Condition) によれば, 単に VP であればこの VP 内の NP を抜き出すことが可能であるはずであるのに, 実際には (41b-d) に見られるように, この擬似修飾の S からはどんな NP も抜き出すことが出来ないこと, (b) (A. の (21) とはまったく逆に) (42a, b) では *their* または *him* がその「先行詞」(“antecedent”) に先行し統御しているにもかかわらず照応関係が成り立つことを上げている。

- (41) a. The moon rising over the mountain was observed by many students last night.
 b. *Which mountain was the moon rising over observed by many students last night?
 c. *The mountain that the moon rising over was observed by many students last night is called Mount St. Patrick.
 d. *That mountain, the moon rising over was observed.
- (42) a. The moon rising over *their* houses has been observed by many people in this town.
 b. Mrs. Hicks calling *him* could not be heard by *John* because he was sleeping.

3.2.4 また, (a) (41b-d) で行なわれたのと同じテストが (43b-d) のように可能であることによって, (31a) のような文の PPVC は擬似修飾の S を含む NP ではないこと, さらに (b) Ross の左枝 (分かれ) 条件 (Left Branch Condition) 及び Chomsky の上位範疇優先の原則 (A-over-A principle) によって阻止されるはずの (44) によって, (31a) (= (43a)) の PPVC が NP 構成素でないことは明らかだと指摘している。

- (43) a. John saw the moon rising over the mountain.
 b. Which mountain did John see the moon rising over?
 c. The mountain that John saw the moon rising over is called

Mount St. Patrick.

- d. That mountain, John saw the moon rising over last night.
 (44) Which moon did John see rising over the mountain?

3.3.1 第3にD.はPPVCの「主語」が受動によって母体文の主語になったと見られる、A.が外置を受けた派生構造からさらに受動を受けたものとした(45a) (= (22c))を取り上げ、ここではIPVCをPPVCに置き代えることは出来ないこと²³に着目する。

- (45) a. *The moon was seen (by me) rising over the mountain last night.*
 b. **The moon was seen (by me) rise over the mountain last night.*

そして(31a, b)のような構文ではPPVCはまさしくIPVCの進行の相手(progressive counterpart)であり、「(45a, b)のタイプの文では非進行(nonprogressive)の解釈を妨げるものはない²⁴」ので、(45b)の非文法性は(31a, b)と(45a, b)は異なるタイプの構文であることを唆示しているとする。

3.3.2 この結論は次のような意味上の考察(semantic consideration)によって確認される。

(31a, b)タイプの文では、(46a-d)に見られるように、(Gee (1977)によっても述べられているが)IPVC/PPVCの「主語」NPは知覚の直接の対象になる必要はなく、知覚の対象はIPVC/PPVC全体によって表現されている出来事(event)である²⁵。

- (46) a. *The children watched Tom moving the puppets.*
 b. *We heard the farmer kill (ing) the pig.*
 c. *We smelled Mary beeswaxing the flour.*
 d. *Bill felt Tom sit down beside him on the sofa.*

さらにこのタイプの文では、(47a-c)に見られるように、虚字のit(expletive it)やイデオム片切れ(idiom chunk)のように指示物を持たない(nonreferential)NPあるいは抽象的(abstract)NPのように指示物が直接観察(observation)できないNPがIPVC/PVCの「主語」NPになれる事実は、このNPが観察される必要のないことを示めしているとする。

- (47) a. I saw it raining.
 b. We noticed allowances being made for the very young.
 c. I have seen faith accomplish miracles.

これに対し (45a) タイプの文 (48a-d) では主語 NP は直接知覚される対象でなければならないとする²⁶。

- (48) a. Tom was watched playing the puppets (by the children).
 b. The farmer was heard (by us) killing the pig.
 c. Mary was smelled (by us) beeswaxing the floor.
 d. Tom was felt (by Bill) sitting down beside him on the sofa.

さらに (47a-c) のような直接観察できない NP は, (49a-c) に見られるように受動化 (passivize) できない事実はこの結論と一致するものであるとする。

- (49) a. *It was seen raining (by us).
 b. *Allowances were noticed (by us) being made for the very young.
 c. *Faith has been seen (by me) accomplishing miracles.

3.3.3 上記の観察は, (31a) の表面的形を持つ文は 2 種類の統語構造と, これに対応する 2 つの異なる解釈を持つと仮定すれば説明できるとする。

1 つの解釈は “I saw the event of the moon rising over the mountain” で, これは (3.1 で示めされたように) 対応する基底構造では, PPVC は S 補部である。別の解釈は “I saw the moon as it was rising over the mountain” のようなもので, この読みでは, *the moon* は *saw* の直接目的語 (direct object) であり分詞節 (participial clause) *rising over the mountain* は (50a, b) の分詞節とまったく同じ「叙述付加詞」 (“predicative adjunct”) (「目的補語」 (“object complement”)) であるとしている。

- (50) a. I found the bike *leaning against the wall*.
 b. I caught the boy *stealing apples from our orchard*.

D は “I saw John running away” のタイプの大部分の文は両方の分析が可能であるが, (47a, b) は前者のタイプでしかあり得ず, 逆に (51) のように目的語 NP が PPVC の残りから切りはなされている文では, 必然的に後者のタイプであるとしている。

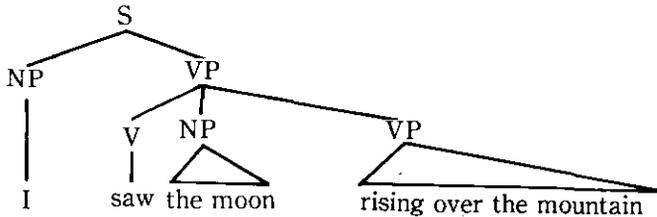
- (51) I saw John, and Peter saw him too, crossing the road.

また受動化を許すのは後者のタイプの構造のみであることは、(a) (52a) は曖昧 (ambiguous) であるが、(52b) は“John was watched while he was crossing the road”の解釈しか持たないこと、(b) 後者の解釈を与えることのできない (47a-c) は ((49a-c) で見たように) 対応する受動形を持たない、(c) ((45b) に見られるように) IPVC には受動化は不可能であることによって示めされるとしている。

- (52) a. People watched John crossing the road.
 b. John was watched crossing the road.

なお、D.はこの後者のタイプの PPVC、(a)すなわち IPVC と交替も等位接続されることも出来ない、(b) 1つの NP 構成素として振るまわれない、(c) PPVC 内の「主語」NP が直接知覚の対象でなければならない、(d) 分詞節が叙述付加詞である PPVCは、多分(53)で表わされる基底で生成された構造 (base-generated structure) を持つだろうと述べている。

(53)



注

*インフォーマントとして、S. Toskar 氏と S. Wellman 氏を煩した。両氏に感謝する。用語はできるだけ「新言語学辞典」にしたがった。

1. 加藤(1972)及び加藤(1976)参照。ただし、筆者が(「間接目的語 NP+直接目的語 to-infinitive」構造を取る) d 類と分類した tell, order, permit などの動詞とは無関係であろう。なお Gee (1977) にもこの問題についての興味ある言及がある。
2. 各セクションの区分は、理解を容易にするための筆者自身のものである。斜体部は A. の場合は太文字を移し代えただけであるが、D. の場合は筆者が加えたものである。
3. Gee (1977) はこの論文に多くの疑問を提起している。

4. 外に watch, notice, look at, listen to, witness, behold, perceive, record, photograph, film, tape, study, imitate, portray, catch, discover, find (observe は遺漏か?) が含まれ、個々の語は項目の低位範疇化の特異性を除けば、これらの述語 (predicate) は全て本論中の例文の see または hear に置き代えることが出来るとしている。
5. p. 427.
6. 進行助動詞 be に関連しては、We saw the man rising over the mountain は進行助動詞を持つ We saw [the moon-be-rising over the mauntain] から派生されたものであるとする、いわゆる「折たたみ進行形」 (“telescoped progressive”) 分析は、*I am needing more drugs が非文法的であるきもかかわらず、I just can't see myself needing any more drugs が文法的である事実により排除されるとする記述がある。また We saw the rebels being executed by the army に見られる受動助動詞 be は AUX 節点ではなく VP 節点に支配されるものであるとしている。
7. (10a) は基底主語の例ではない。
8. イタリックは筆者
9. p. 433.
10. *がついているが him ≠ John であれば文法的であろう。Him playing the piano is a sight as funny as you dancing on the table は文法的。
11. A. はのちに “Infinitive” PVC と呼ぶ。
12. A. はのちに “Gerund” PVC と呼ぶ。
13. p. 439.
14. 各例文の後の注記は筆者。
15. D. は表面的、具体的構造を construction と呼び、それを支える構造を structure と区別しているようである。
16. p. 2.
17. ただし、第2の分析が実際に see や hear の補部に起り得るかいなかについては、何の言及もない。
18. p. 2.
19. のちの記述からすると、この事実を「PPVC と IPVC が交替 (alternate) 可能である」としているようである。
20. (31a) は I saw the moon be rising over the mountain の義務的な縮約 (obligatory reduction) と考えられるとしている。
21. I heard John tap on the window は瞬時出来事 (punctual event) を

- 指し, I heard John tapping on the window は繰り返しの解釈 (repetitive interpretation) を持つが, What I heard was John tapping (*tap) on the window は必ずしも反復的 (iterative) な意味を持たない。この文は前2者の擬似分裂版 (pseudo-cleft version) であると指摘している。
22. 議論に関係のない \bar{S} , COMP, AUX, Tense などの節点は省かれている。
 23. これには *He has often seen (by me) glance through her window or watching her when she was sunbathing (Cf. (32b)) のように IPVC と PPVC が等位接続されないことも含まれているのであろう。
 24. p. 12. この記述は筆者には理解できない。b を含めているのは単なるミスとするとしても, (45a) に非進行の読みが可能とは思われない。さらに, Conclusion (p. 25) では, “Unlike PPVC of the second type (and like those of the first), the meaning is normally progressive” と逆転している。
 25. つまり, ‘Tom は陰にかくれていてもよい’, ‘農夫は黙っていてもよい’, ‘Mary が臭いを出していなくてもよい’, ‘Bill が Tom に触らなくてもよい’ことを意味する。筆者のインフォーマントは (46b-d) についてはむしろこの解釈しか認めなかった。
 26. つまり, ‘子供たちは Tom 自身を見た (playing は moving 誤りか), ‘ブタを殺しながら農夫が音を出した’, ‘床にワックスをかけながら Mary が臭いを出した’, ‘座った時, Tom が Bill に触った’(‘Bill はホモですね’) と言うのがインフォーマントの冗談) ことを意味する。

参考文献

- Akmajian, A. 1977. “The Complement Structure of Perception Verbs in an Autonomous Syntax Framework”, in P. W. Culicover, T. Wason and A. Akmajian (eds) *Formal Syntax*, p. 427-60. Academic Press.
- Declerk, R. 1982. “The Triple Origin of Participial Perception Verbs”, *Linguistic Analysis*, Vol. 10, p. 1-26.
- Gee, J. P. 1977. “Comments on the paper by Akmajian”, in P. W. Culicover, T. Wasow and A. Akmajian (eds) *Formal Syntax*, p. 461-481. Academic Press.
- 加藤力也, 1972. 「不定詞付き対格」の深層構造について, 北星論集, 9号 p. 31-45. 北星学園大学。

知覚動詞補部構造に関する覚え書き

———, 1976。「Equi-Verbの論理構造について」北星論集, 14号, p. 1-19。北星学園大学。

安井稔(編), 新言語学辞典, 研究社, 1975。